

## 第 67 回東日本実業団陸上競技選手権大会

### 【出場結果】

実施日：5月23日（金） 1500m

5月25日（日） 5000m

会場：熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

出場者：小林 航央 関口 大樹 坪井 響己 小野 修平 三浦 剛

救仁郷 弓輝 下田 大翔

出場種目・出場者・リザルト

| 氏名  | 小 野                | 下 田     | 小 林     |
|-----|--------------------|---------|---------|
| 種目  | 1500m              | 1500m   | 1500m   |
| 組   | 2 組目               | 2 組目    | 4 組目    |
| タイム | 3'56"86<br>(自己ベスト) | 4'07"44 | 3'57"64 |
| 順位  | 6/18               | 14/18   | 16/18   |

| 氏名  | 関 口      | 三 浦      | 小 野      | 下 田      | 坪 井      | 救仁郷                 |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|---------------------|
| 種目  | 5000m    | 5000m    | 5000m    | 5000m    | 5000m    | 5000m               |
| 組   | 2 組目     | 2 組目     | 2 組目     | 3 組目     | 3 組目     | 3 組目                |
| タイム | 15'34"43 | 14'39"29 | 14'28"60 | 14'53"70 | 14'14"81 | 14'02"73<br>(自己ベスト) |
| 順位  | 26/27    | 17/27    | 11/27    | 28/29    | 14/29    | 4/29                |

### 【レポート】

今年度の東日本実業団陸上競技選手権大会は、昨年に引き続き地元である埼玉県熊谷市、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催され、例年の2日間開催からタイムスケジュールに余裕を持たせるため、初の3日間開催で大会が行われました。

当社からは前半シーズンのチーム目標レースとして新人2名を含む7名の選手が出場しました。

初日に開催された1500mは全4組のタイムレースで順位が争われ、当社からは2組目に小野と下田、4組目には小林がエントリーされました。

2組目に出場した小野は前半から先頭集団でゆとりを持ってレースを進めたのに対し、下田は集団の最後方から、やや離れた位置でレースを進めました。

小野はラスト200mこそ、先頭争いから遅れたものの、最後まで腰高でストライドの伸びる、しなやかな走りは変わらず、高校時代の自己記録を更新する3分56秒台でゴールしました。

一方、下田は最後までレース争いに加わることなく、単独走となり4分7秒台でのゴールとなり、社会人初の公式戦は課題が残る悔しい結果に終わりました。

最終の4組目に出場した小林は、一週間前の発熱によってコンディションに不安を残したままのレースとなり、序盤こそ先頭集団のペースに食らいついたものの、中盤以降は本来の勢いのある走りは影を潜め、ペースを上げることなく3分57秒台でのゴールとなりました。

小林は、7月に行われる日本選手権の参加標準記録(3分44秒00)は既に突破しているため、ここからコンディションを整えて、大舞台で活躍してくれることを期待したいと思います。



高校時代の自己記録を更新した小野



社会人初の公式戦で悔しさが残った下田



直前のコンディション不良で走りに精彩を欠いた小林

大会 3 日目の最終日には 1500m 同様に 5000m が全 4 組のタイムレースで順位が争われ、当社からは 2 組目に関口、小野、三浦の 3 名、3 組目には小林、坪井、救仁郷、下田の 4 名がエントリーされました。

2 組目に出場した関口は、小林と同様に直前で体調を崩しており、序盤から最後方でレースを進めました。

1500m で自己記録を更新し、好調を維持する小野は先頭集団でレースを進め、三浦は第 2 集団を引っ張る形でレースを進めました。

先頭集団でレースを進めた小野は 3000m を 8 分 30 秒台の好ラップを通過し、自己記録更新の走りに期待が高まりましたが、3000m 以降は先頭集団から離れてしまい、狙っていた自己記録更新とはならなかったものの、14 分 28 秒台と先ず先ずの記録でゴール。

中盤まで第 2 集団を引っ張っていた三浦は、後半は集団後方に下がりましたが、最後まで落ち着いた走りで 14 分 39 秒台でのゴール。

序盤から苦しい走りとなった関口は、最後まで走りの精彩を欠き 15 分 34 秒でのゴールとなりました。



1500m に続き、好調な走りを見せる小野



序盤から集団を引っ張り、安定した走りを見せる三浦



コンディショニングに課題が残った関口

3 組目に出場した小林はコンディション不良もあり、3000m までのレースとなりましたが、先頭集団を引っ張る果敢な走りを見せ、8 分 25 秒台でゴールし復調の走りを見せてくれました。

先月の日体大記録会の 10000m で 28 分台をマークし好調を維持する坪井、救仁郷は 13 分台の大台を狙って先頭集団でレースを進め、1500m で課題が残った下田は集団の最後方でレースを進めました。

序盤こそ最後方を走っていた下田ですが、1000m 過から一気にスピードを上げ、2000m 手前で先頭に躍り出ると、先頭集団を引っ張る積極果敢な走りを見せ、課題克服しようとする下田の気持ちをレースで感じることは出来ましたが、ここで身体が固まりだし、集団の後方へ。

救仁郷は先頭集団でレースを進め、3000m を 8 分 25 秒台で通過し、坪井、下田も集団から少し離れたものの 8 分 28 秒台で通過、好記録に期待が高まりました。

救仁郷はラスト 1 周こそ先頭集団のラスト争いで先頭に距離を開けられたものの、ラストスパートも冴え自己記録を更新する 14 分 2 秒台でのゴールとなりました。

次に、先頭集団から離れたものの、後半も粘りのある走りを見せた坪井が 14 分 14 秒台の好タイムでゴールし、前半果敢に攻めた走りを見せた下田は、後半失速してしまい 14 分 53 秒台でのゴールとなりました。



社会人初の公式戦でも自己記録を更新し、走りの「強さ」を見せた救仁郷



狙っていた 13 分台には届かなかったものの、粘りの走りを見せた坪井



前半は新人らしい攻めの走りを見せた下田



途中棄権ながら復調の走りを見せた小林

## 【総 括】

本大会は、チームとしてシーズン前半の目標に位置付けていたレースでしたが、新人の救仁郷が大舞台でも臆することなく自己記録を更新出来たことは、チームに勢いを与える結果となりました。

また、坪井が普段からキャプテンシーを見せて、チームを背中で引っ張る走りをしてくれることで、小野や三浦といった今後のチームを担っていく選手も安定して力を発揮してくれるようになりました。

一方、体調不良に陥って本来の力を出せない選手もいましたので、6月28日に開催される全国男鹿駅伝競走大会では、改めてチームの力が試されることとなりますので、チーム一丸となって体調面・フィジカル面ともに充実した形でレースに臨めるよう万全を期して参ります。

個人レースとしては6月1日に北海道函館市で行われる道南ディスタンスに坪井、救仁郷の2名が13分台を狙ってレースに臨みます。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。

以 上